

古座高校

ユネスコ協同学校に登録

世界中の学校と 交流期待 県内では2校目

古座高校が地球規模の問題を学習したり、世界中の学校と交流できたりするユネスコ協同学校に登録された。県内の学校では和歌山市の伏虎中学校に次いで2校目。

同校は2007年度から、世界遺産がある地元とさまざまな分野を関連付けて学ぶ「世界遺産教育」を導入。1年生の総合的な学習の時間では、古座街道や大門坂のフィールドワーク、「空海と高野山」「串本の海とラムサール条約」をテーマにした授業を年間35時間実施した。元和歌山ユネ

スコ協会事務長を招いての講演会などは全校生徒で聞いた。

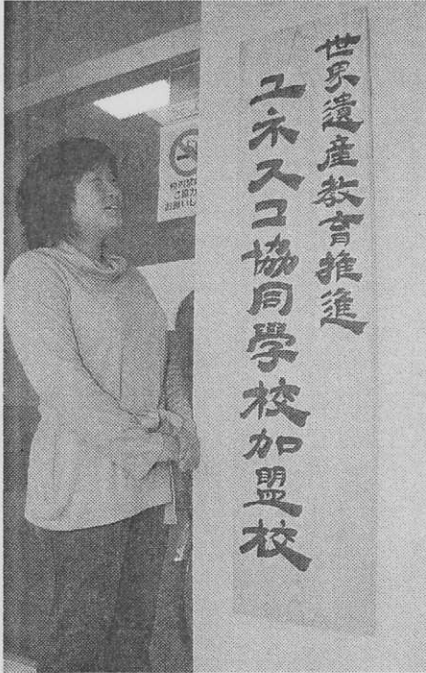
世界遺産教育は、郷土愛と国際社会に貢献する資質を育てるのが狙い。ユネスコが提唱する人権や平和、環境、国際理解についての教育を実践しているとして、昨年7月、文部科学省を通じてパリ本部にあるユネスコ協同学校へ登録を申請した。12月に正式加盟承認の通

2/13

達があり、1月に認定書が届いた。

古座高校の玄関には「世界遺産教育推進ユネスコ協同学校加盟校」と書いた表札を掲げた。南方孝之校長は「今回の認可で、世界各国の世界遺産教育実施校とのネットワークを活用し、情報交換が可能となった。今後の世界遺産教育の充実が大いに期待できる」と話している。

4月に新しく誕生する



玄関に掲げているユネスコ協同学校加盟校の表札（串本町中湊で）